

都城工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	総合社会 I
科目基礎情報						
科目番号	0009		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	物質工学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	(教科書)『現代社会』第一学習社 978-4804008776 (参考資料)『現代社会ノート』第一学習社 978-4804053967『新課程用 最新現代社会資料集 新版(2019)』978-4804054018					
担当教員	吉井 千周					
到達目標						
1 倫理、政治・経済における基本的な用語を理解し、自分の意見を述べる際に使用することができる。 2 社会事象を理解し、自分の見解を述べることができる。 3 社会の事柄について、論理的な文章を書くことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
基本理論と用語の理解	基本的な倫理、政治・経済の理論を支える用語を理解し、正しく使用し、自分の見解を述べる事が出来る。		基本的な倫理、政治・経済の理論を支える用語を理解しているが、正しく使用することができず、あいまいながら自分の見解を述べる事ができる。		基本的な倫理、政治・経済の理論を支える用語を理解しておらず、正しく使用することができず、自分の見解を述べる事ができない。	
アクティブラーニング技法の理解	アクティブラーニング技法を理解し、授業外でも一人で自分のアイデアを判りやすくまとめることができる。		アクティブラーニング技法を理解し、授業内で補助者の下、自分のアイデアを判りやすくまとめることができる。		アクティブラーニング技法を理解できず、授業内で補助者の下であれば自分のアイデアを判りやすくまとめることができる。	
論述力の醸成	自分の意見を、適切な根拠に基づき、わかりやすく伝えることができる。		自分の意見が、適切な根拠に基づいて伝えられているが、話がわかりにくい。		自分の意見を支える根拠に飛躍が見られる。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、倫理、政治・経済の基本的な問題について主体的に考え、公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。					
授業の進め方・方法	教科書に沿って基本事項の解説を行う。授業中にはアクティブラーニングを多用した授業を行う。自己学習として、予習状況を確認するために小テストを行う。また、レポートの形でアクティブラーニングの成果を課す。4回の定期テストのほか、社会科学における論述力を高める指導を行う。これらの作業が常時行われるので、積極的に授業内で発言をすること。					
注意点	1 教科書・資料集の指定された箇所を読んでおくこと。 2 ノートの指定箇所の穴埋めを必ず行うこと。宿題として出された論文を必ず書き終えること。 3 新聞・テレビなどの政治経済のニュースをよく聞き、理解出来るようにつとめること。					
ポートフォリオ						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	地球環境問題		地球環境問題について概要を理解する。	
		2週	科学技術の発達と一人ひとりの生命		科学技術のもたらした恩恵と、その欠点について理解する。	
		3週	高度情報社会、国際社会		高度情報化社会における利点と問題点を理解する。	
		4週	青年期の意義		青年期について心理学者が述べたことを理解する。	
		5週	自己形成の課題		青年期における発達課題について理解する。	
		6週	現代社会における青年の生き方		現代社会における青年の生き方について、日本の風土を前提として考えることができる。	
		7週	技術革新の進展		産業革命以降の技術革新についてその背景を理解する。	
		8週	産業構造の変化		産業構造の変化とそれがもたらした社会構造の変化について理解する。	
	2ndQ	9週	企業のはたらき		企業の社会的な機能について説明できるようになる。	
		10週	市場経済のしくみ		自由主義経済の仕組みを理解し、共産主義との違いを説明できるようになる。	
		11週	政府の経済的役割と租税の意義		財政について理解出来るようになる。	
		12週	金融機関のはたらき		金融について、銀行・証券会社の機能を理解出来るようになる。	
		13週	雇用と労働問題		雇用をめぐる現代的な問題を理解できる。	
		14週	世界の経済体制の動向		グローバリゼーション化する世界経済の仕組みを理解する。	
		15週	哲学とは何か		ギリシャ哲学から中世スコラ哲学までの流れを理解出来る。	
		16週	現代社会と哲学		中世以降の哲学と現代社会における政治哲学を理解できる。	
後期	3rdQ	1週	貿易の拡大と経済摩擦		グローバリゼーションの中で日本の企業が海外で果たした役割を理解出来る。	
		2週	発展途上国の経済と南北問題		南北問題に代表される国家間の経済格差についてその仕組みを理解する。	
		3週	現代の民主政治と私たちの生活		現代の民主政治の成り立ちについて、フランス革命以降の世界的な潮流を理解出来る。	

		4週	民主政治における個人と国家	ホッブズ、ロック、ルソーの思想を理解し、国家のあり方について理解出来る。
		5週	基本的人権	「人権」の成り立ちについて、世界史的な立場から理解出来るようになる。
		6週	法の支配と立憲主義	法の支配、法治主義を理解し、立憲主義による近代憲法の成立を世界史的な視点から理解出来るようになる。
		7週	日本国憲法の基本原理：国民主権	明治憲法以降の日本の立件しについて理解し、日本国憲法の成り立ちを説明出来るようになる。
		8週	日本国憲法の基本原理：基本的人権	日本国憲法が定める基本的人権（自由権、参政権、社会権）を理解出来るようになる。
	4thQ	9週	日本国憲法の基本原理：平和主義と日本の安全	日本国憲法に記載されている高給平和主義を理解出来るようになる。
		10週	基本的人権の保障と新しい人権	日本国憲法に明文化されていない「新しい人権」（環境権・プライバシーの権利）を理解出来るようになる。
		11週	裁判所と人権保障	司法権の仕組みと罪刑法定主義について理解出来るようになる。
		12週	国民主権と議会制民主主義	行政のしくみについて、積極説・消極説の違いを理解出来るようになる。
		13週	内閣と行政の民主化	内閣の運営と地方行政について理解する。
		14週	地方自治と住民の福祉	地方自治における住民の役割と、地方自治体の活動を理解する。
		15週	世論形成と政治参加	マスメディアと世論形成、政治参加について理解出来るようになる。
		16週	主体的な市民として生きる	これまでの授業を総括し、どのように「市民」として活動出来るか考える。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	1
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	1
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	1
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	1
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	1
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	1
		公民的分野		人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	2
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	2
				現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり議論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	1
	工学基礎	グローバル化・異文化多文化理解	グローバル化・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	2
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	2
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	2
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	2
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	法令やルールを遵守した行動をとれる。	1
				他者のおかれている状況に配慮した行動をとれる。	1
				技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	1

評価割合

	試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品実技	その他	合計
総合評価割合	90	0	10	0	0	0	100
知識の基本的な理解	50	0	0	0	0	0	50
思考・推論・創造への適応力	0	0	10	0	0	0	10
汎用的技能	0	0	0	0	0	0	0
総合的な学習経験と創造的思考力	40	0	0	0	0	0	40